

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

- ※本体落下の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・当製品は木造躯体に取付ける構造になっています。取付け前に必ず躯体条件を確認してください。(P.2参照)
- ・先付けブラケットは外壁下地工事前に躯体に取付けてください。
- ・ボルト・コーチボルトの下穴には、指定より太いドリルを使用しないでください。
- ・必ず指定の取付けねじ・ボルト類で固定してください。

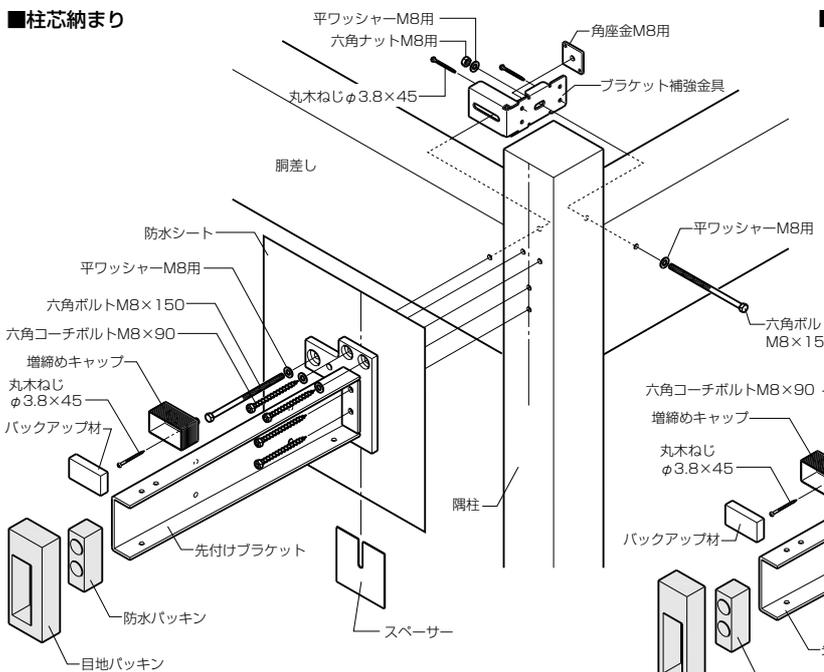
▲注意

- ※漏水のおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・シーリング指定個所には、必ずコーキング材を充てんしてください。
- ・サッシの下に先付けブラケットを取付ける場合は、必ずサッシ枠まわりの防水テープ工事後にブラケットを取付けてください。(P.5参照)

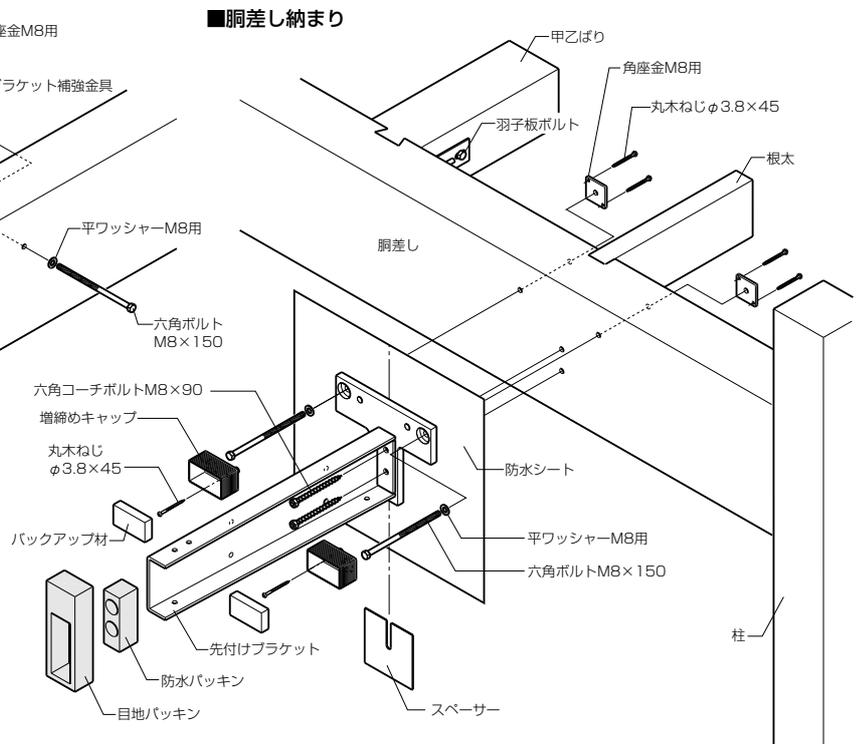
※本商品は、フルフラットタイプには使用できません。

■構造説明図

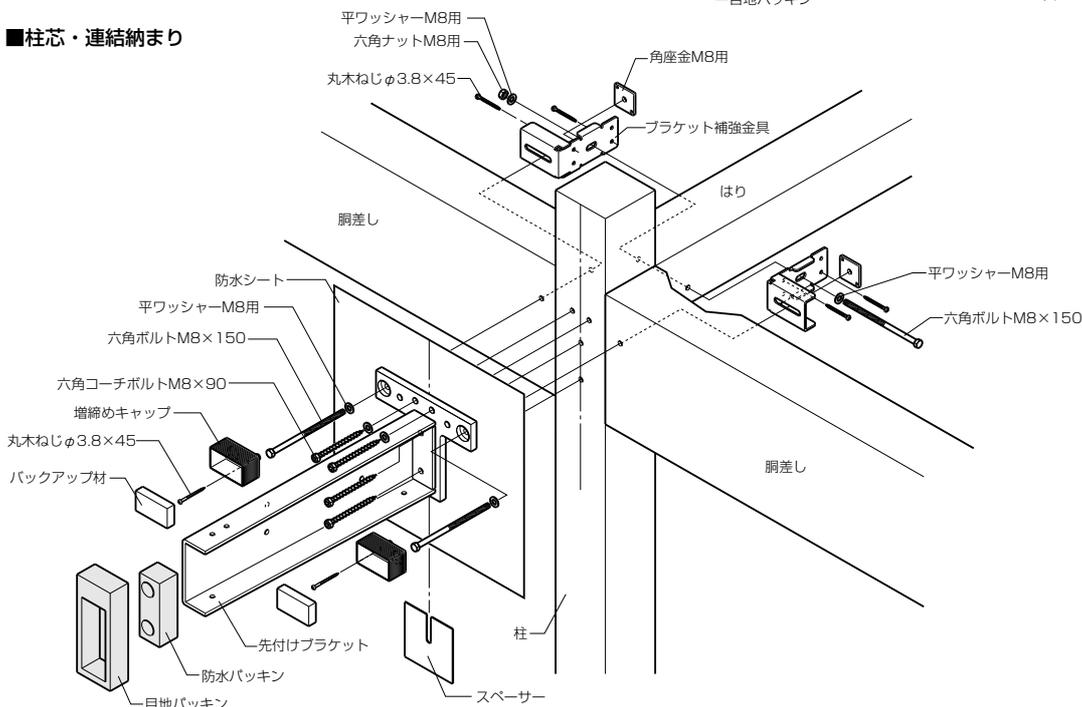
■柱芯納まり



■胴差し納まり

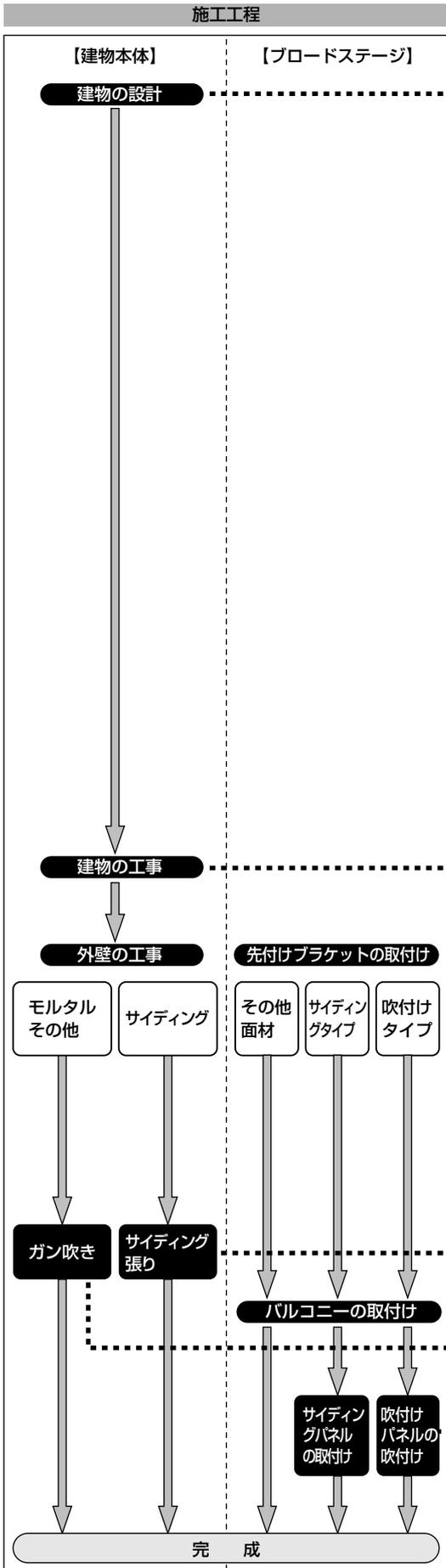


■柱芯・連結納まり



■取付け上のお願

- 先付けブラケットは、足場として使用しないでください。
- 外壁工事の際、先付けブラケットにモルタルなどが付着しないようにしてください。



確認事項

■図面打合わせ・現場調査

1 躯体構造の確認

※躯体が木造であることを確認してください。

2 建物外壁の確認

※外壁厚12～50mmまで対応できます。

3 先付けブラケットの納まり検討

※先付けブラケット取付け部の納まりを確認してから、ブラケットを選択してください。

躯体構造	先付けブラケット	
	柱芯納まり	胴差し納まり
在来工法	○	○
2×4工法	—	○

4 躯体補強の打合わせ

※詳細は躯体補強の項目P.3・4を参照してください。

5 躯体条件の確認

※必ず下記の躯体条件を確認してください。

- 胴差し納まりの場合は、必ず240mm以上の胴差しを使用してください。
- まくらばりは絶対に使用しないでください。
- 2×4工法の場合、壁付け柱取付け部には、4×4の柱を使用してください。
- 連結タイプの場合、中間ばり取付け部には、必ず間仕切り壁用の柱および2階床ばりがくるようにしてください。
- 通気工法の場合、バルコニー固定部通気層には、下地材を入れてください。
※取付け位置詳細は下地材取付け位置図P.8を参照してください。

6 バルコニー面材種類の確認 (吹付けタイプ・サイディングタイプ・その他面材)

■取付け前の打合わせ

1 取付け時期

●先付けブラケットの取付け時期

●バルコニーの取付け時期

- ①足場の取付け依頼
- ②躯体施工の依頼
- ③ブラケット取付け部・躯体補強の依頼

※詳細は躯体補強の項目P.3・4を参照してください。

●バルコニー面材の取付け時期

※工務店さまと打合わせの上、バルコニーに張るサイディングを手配してください。

※工務店さまと打合わせの上、吹付けパネルへの吹付けを依頼してください。

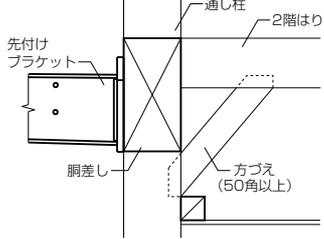
■躯体の補強（在来工法）

■柱芯納まり

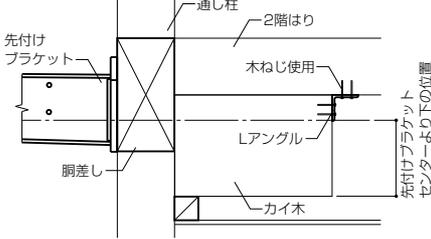
●在来工法の躯体に先付けブラケット（柱芯用）を取付ける場合は、下図を参考に必ず柱を補強してください。

【通し柱の場合の補強】

●方づえ使用

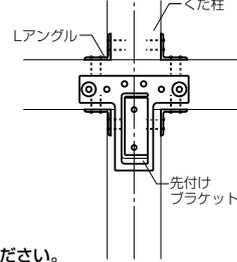


●カイ木使用

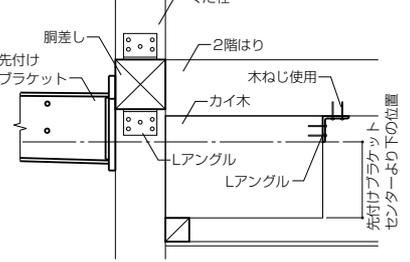


【くだけ柱の場合の補強】

●正面図



●横断面図



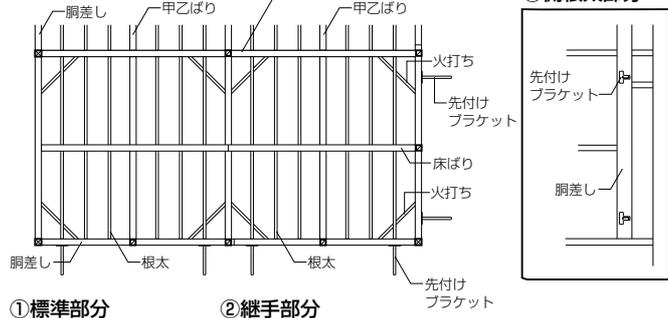
※柱芯ブラケットで胴差し（躯体）に取付ける場合は、胴差し納まりの躯体条件を守り、躯体を補強してください。

■胴差し納まり

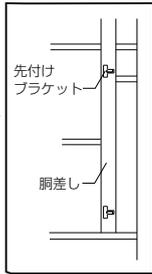
●在来工法の躯体に先付けブラケット（胴差し用）を取付ける場合は、下図を参考に必ず胴差しを補強してください。

※取付け面によって補強方法が異なりますので確認してください。

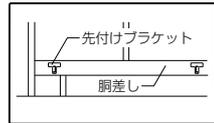
■通常の納まり



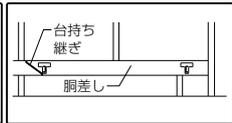
③側根太部分



①標準部分

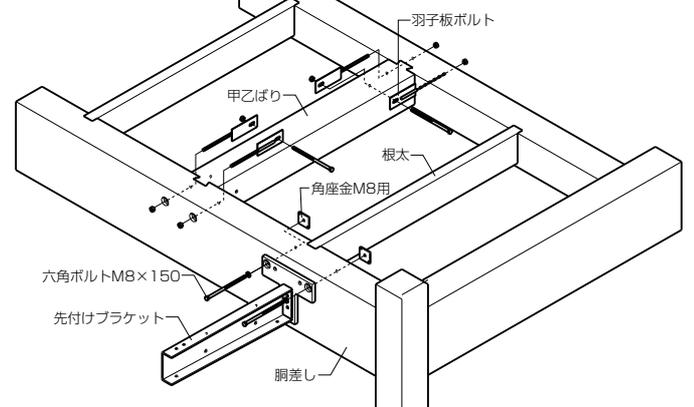


②継手部分



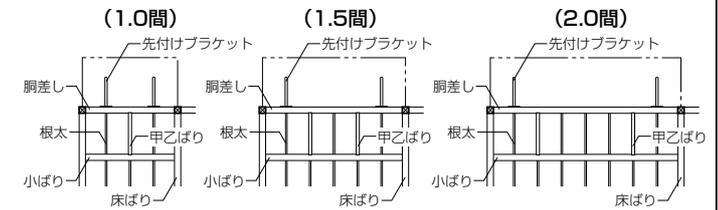
■甲乙ばりによる補強（甲乙ばり105×105以上）

①標準部分



●甲乙ばりの位置

①標準部分

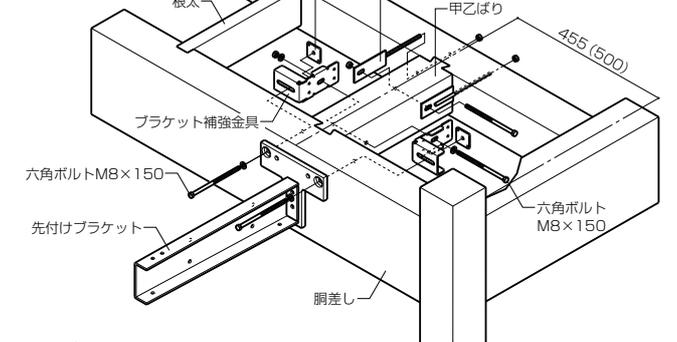


※取付け面によって補強方法が異なりますので確認してください。

■甲乙ばりによる補強

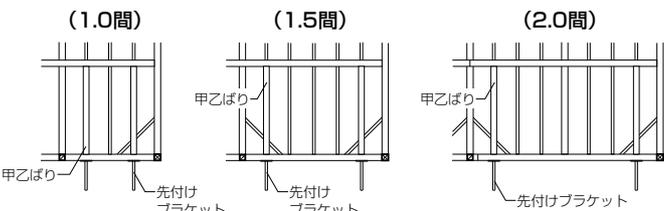
②継手部分

③側根太部分

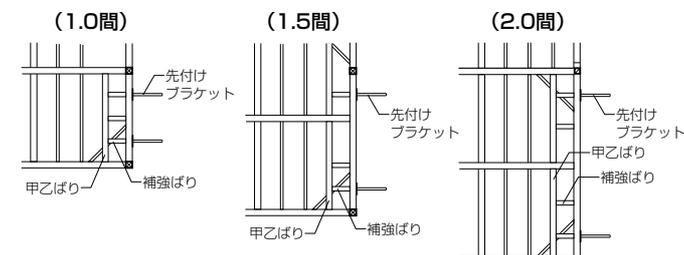


●甲乙ばりの位置

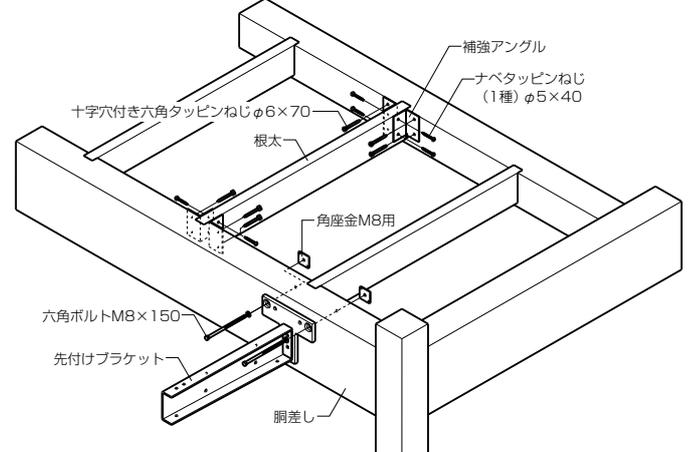
②継手部分



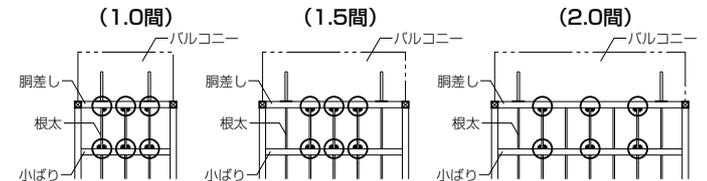
③側根太部分



■補強アングルによる補強



●補強アングルの位置



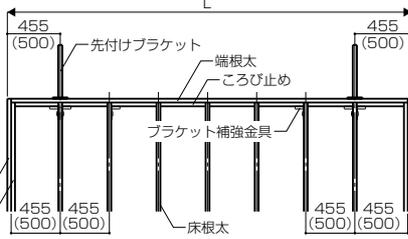
■躯体の補強 (2×4工法)

■胴差し納まり

●2×4工法の躯体に取付ける場合は、下図を参考に躯体を補強してください。
※取付け面によって補強方法が異なりますので確認してください。

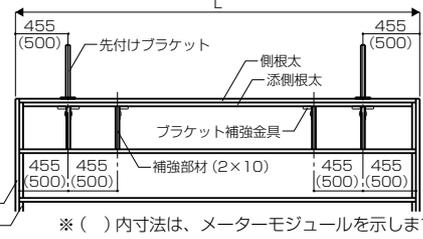
【端根太側】

●先付けブラケット直近の床根太 (2本) を利用して、ブラケット補強金具で補強してください。
※詳細は、**■先付けブラケットの取付け**を参照してください。
※胴差し補強金具 (2×4) セットは別売りです。
(WXCZ024)



【側根太側】

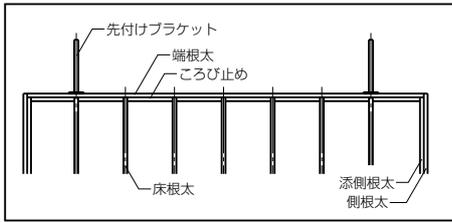
●右図の 部分の位置に、あらかじめ2×10の補強部材を入れておき、さらに2×4用補強アングルで補強してください。
※詳細は、**■先付けブラケットの取付け**を参照してください。
※胴差し補強金具 (2×4) セットは別売りです。
(WXCZ024)



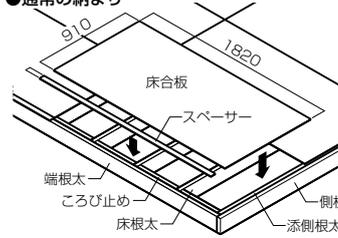
※ () 内寸法は、メーターモジュールを示します。

【参考補強法 (端根太側)】

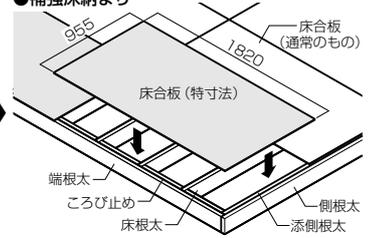
●端根太側のみ、次の方法でも補強ができます。
通常の床合板 (910×1820) とスペーサーにかわって、特寸法の床合板を使用し、床合板と端根太を釘止めて補強します。
※この場合、ブラケット補強金具は必要ありません。



●通常の納まり



●補強床納まり



■取付け順序

■先付けブラケット取付け位置の決め方

●外壁仕上げ後では、取付け位置の変更ができません。
下図にしたがって正確な位置を決めてください。
※P.9~10の納まり図を参照してください。
※ () 内寸法は、メーターモジュールを示します。

(単位: mm)

長さ	L (製品寸法)			
	関東間	関西間	九州・四国間	メーターモジュール
単体	1.0間 1820	2035	1910	2000
	1.5間 2730	2990	2865	3000
	2.0間 3640	3945	3820	4000
	2.5間 4550	5025	4775	5000
連棟	3.0間 5460	5980	5730	6000
	3.5間 6370	6935	6685	7000
	4.0間 7280	7890	7640	8000

出幅	D寸法
2 尺	585
3 尺	885

【標準納まり】

●柱芯タイプ

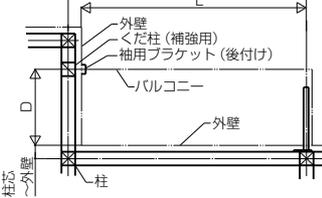


●胴差しタイプ

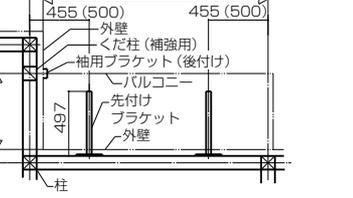


【片袖納まり】

●柱芯タイプ

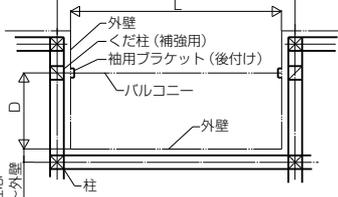


●胴差しタイプ

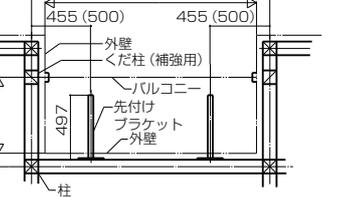


【両袖納まり】

●柱芯タイプ

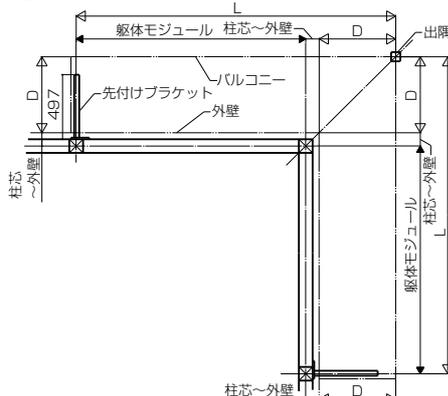


●胴差しタイプ

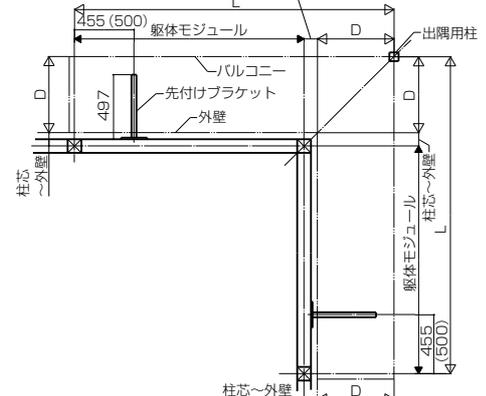


【出隅納まり】

●柱芯タイプ

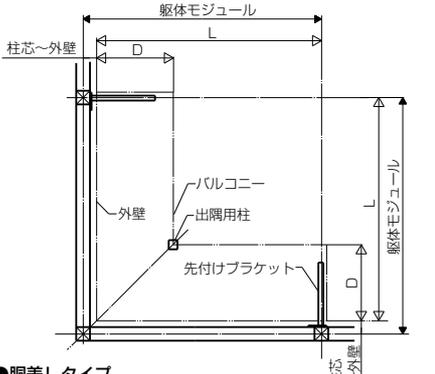


●胴差しタイプ

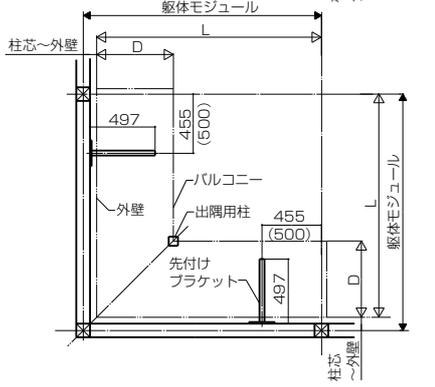


【入隅納まり】

●柱芯タイプ



●胴差しタイプ

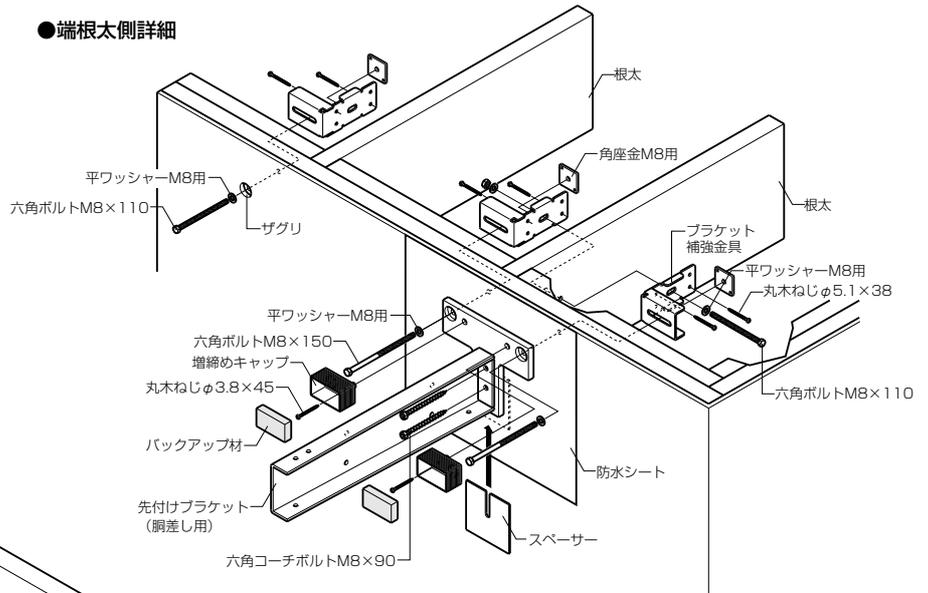


4 先付けブラケットの取付け (2×4工法)

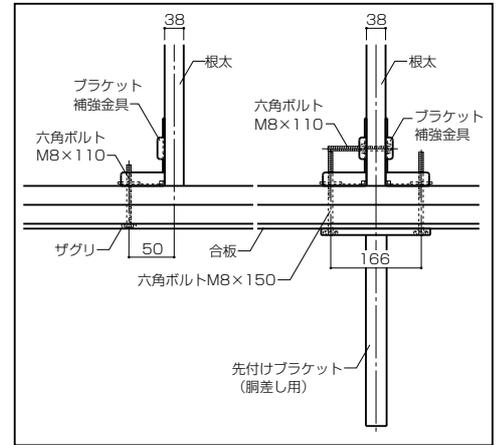
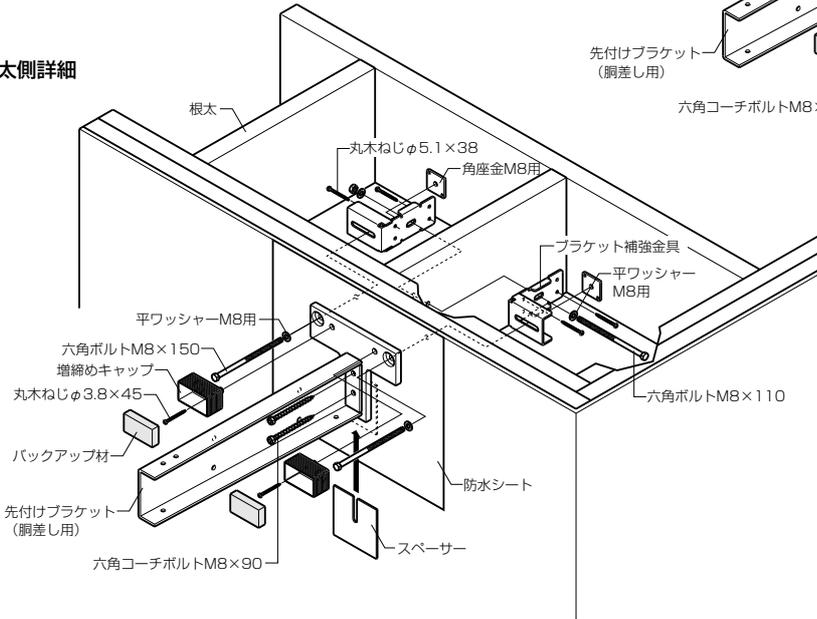
■胴差し納まり

- ① ブラケット取付け位置を墨出しし、ブラケットを六角ボルト M8×150・ブラケット補強金具・角座金M8用で固定します。
 ※根太 (2×10) に貫通穴φ9をあけ、ブラケット補強金具同士を六角ボルトM8×110・ナットM8用で固定してください。
 ※端根太側の場合は、ブラケット直近の根太にブラケット補強金具を取付け、躯体を補強してください。
 ブラケット側の補強金具と同じ高さに合わせ、六角ボルト M8×110・角座金M8用で固定します。六角ボルトの頭が外壁仕上げに影響しないよう、合板にザグリを入れてボルトの頭を隠してください。
 ※ブラケットとサッシ周りの防水方法については、在来工法を参照してください。

●端根太側詳細

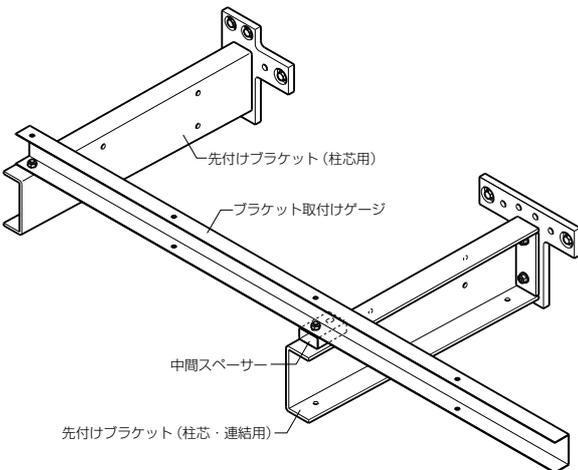


●側根太側詳細

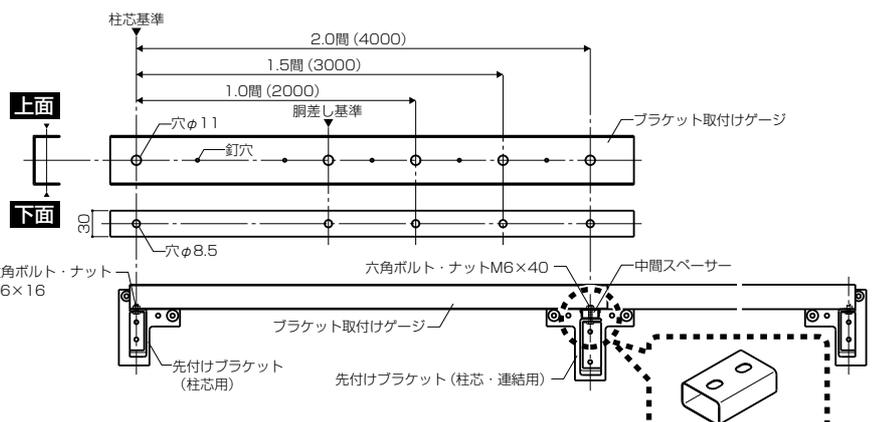


5 先付けブラケットとブラケット取付けゲージの固定

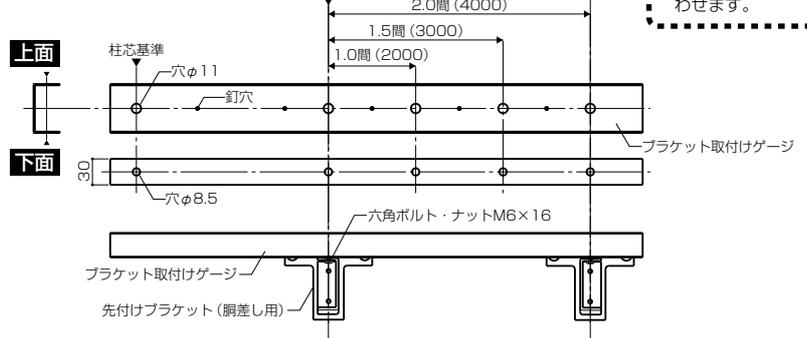
- 先付けブラケットの水平・垂直を正しく保つため、下図の要領でブラケット取付けゲージを取付けます。
 ※ブラケット取付けゲージは、外壁仕上げが完了するまで取外さないでください。



■柱芯納まり



■胴差し納まり



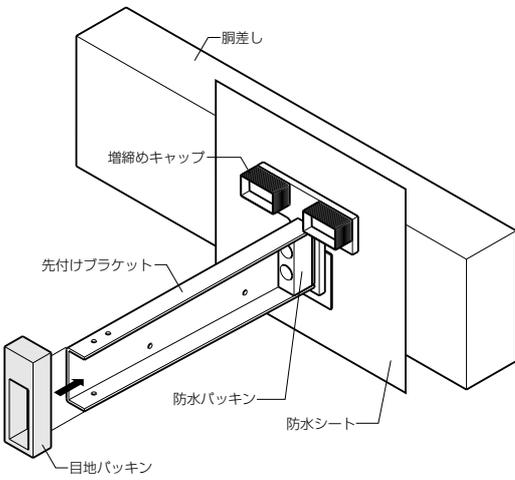
6 防水パッキン・目地パッキンの取付け

■外壁仕上げ前

- ①防水パッキンにコーキング材を塗布し、接着します。
※先付けブラケットとの間にすき間がある場合は、コーキング材を充てんしてください。
- ②目地パッキンを先付けブラケットの根元までスライドさせます。

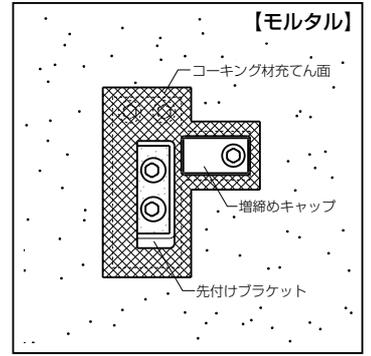
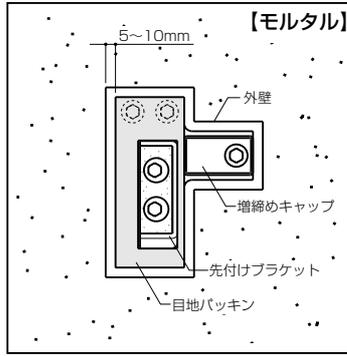
■外壁仕上げ後

- ①先付けブラケットのボルト類を増し締めします。
- ②目地パッキンを取除いた後、先付けブラケット・増締めキャップの周囲に外壁と同面になるようコーキング材を充てんします。
※シーリングをするときは、必ずプライマーを塗布し、一成分形変成シリコン系の低モジュラスタイプのものをお使いください。
※先付けブラケット背板と外壁のコーキング材スペースを5~10mmとるよう、工務店さまと打合わせをしてください。

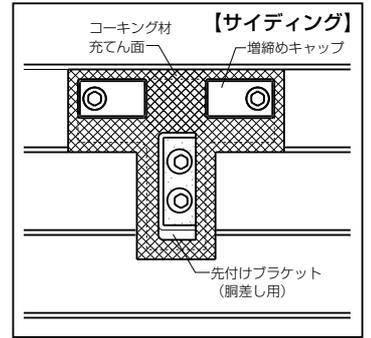
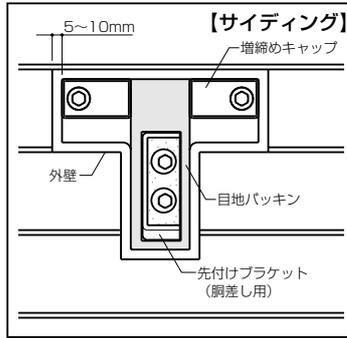


▲注意
●シーリング指定個所には、必ずコーキング材を充てんしてください。

■柱芯納まり



■胴差し納まり

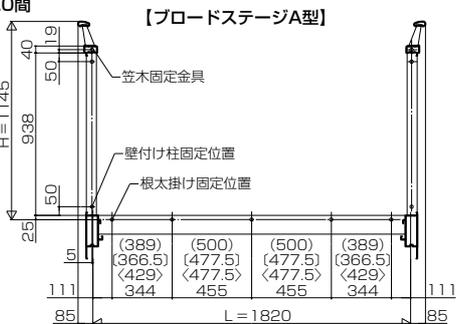


■下地材取付け位置図

※〈 〉内寸法は関西間、〔 〕内寸法は九州・四国間、()内寸法はメーターモジュールを示します。

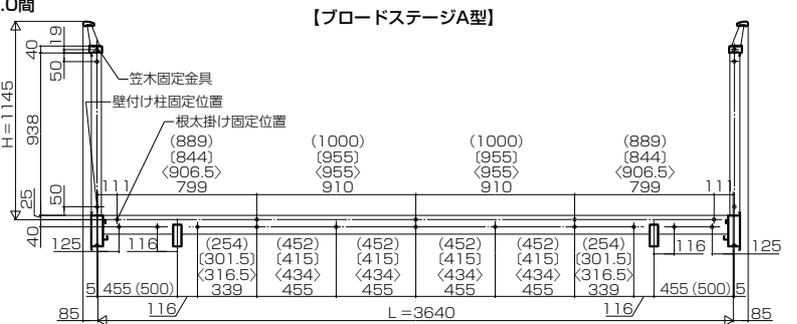
■柱芯タイプ

●1.0間

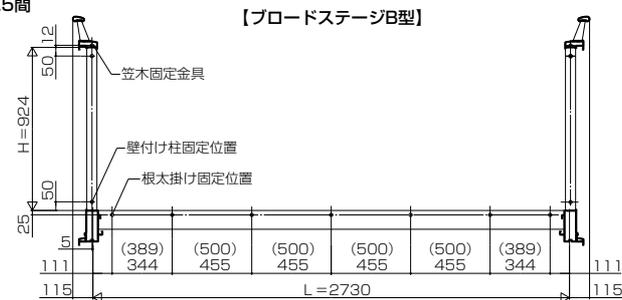


■胴差しタイプ

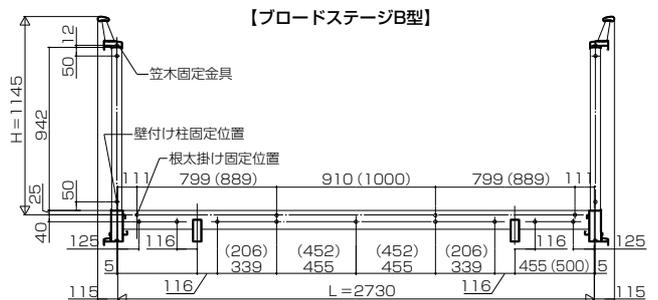
●2.0間



●1.5間



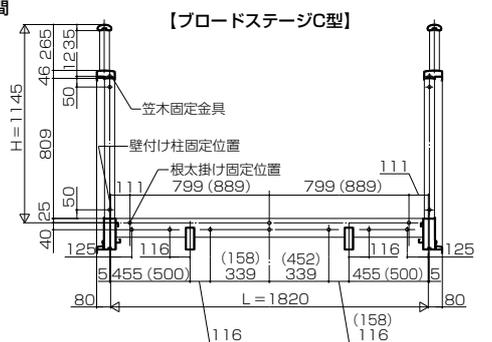
●1.5間



●2.0間

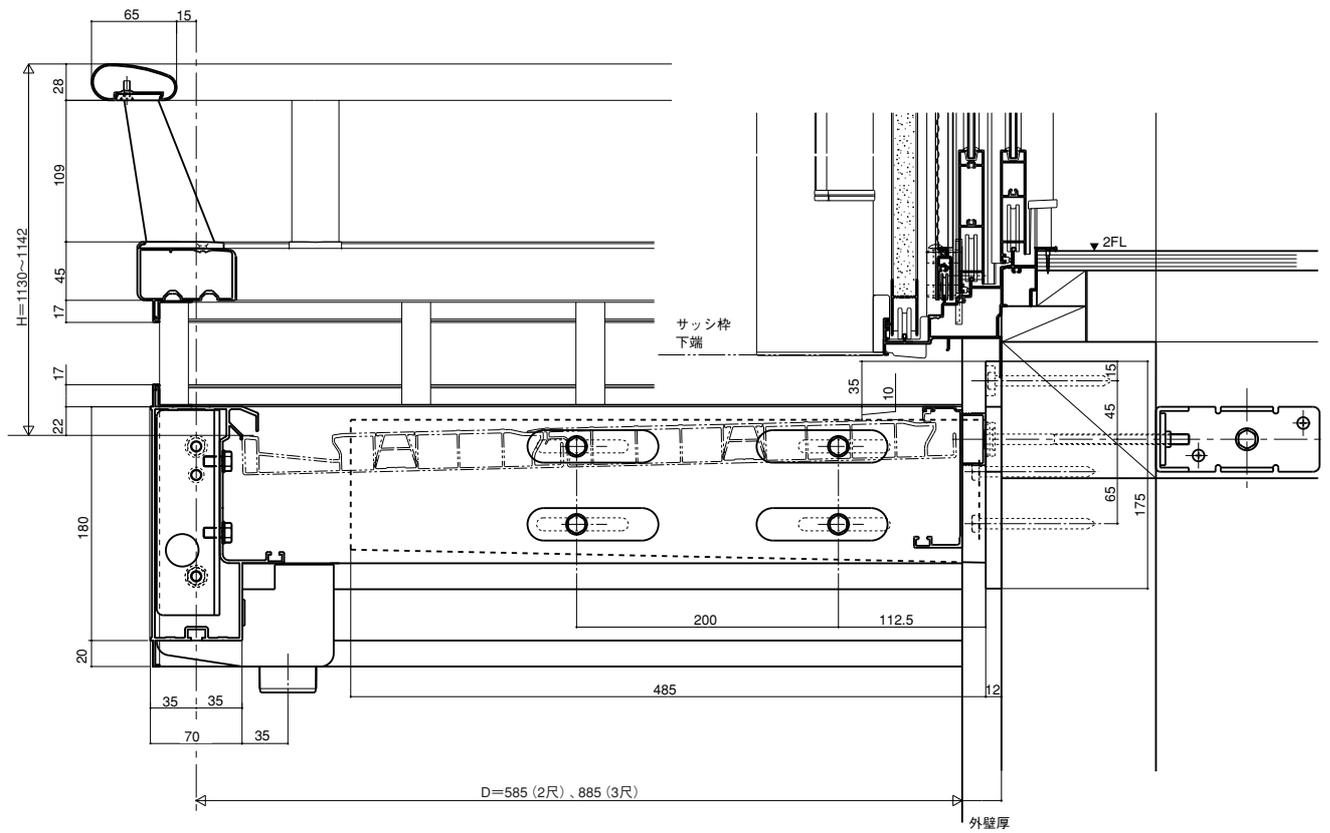


●1.0間

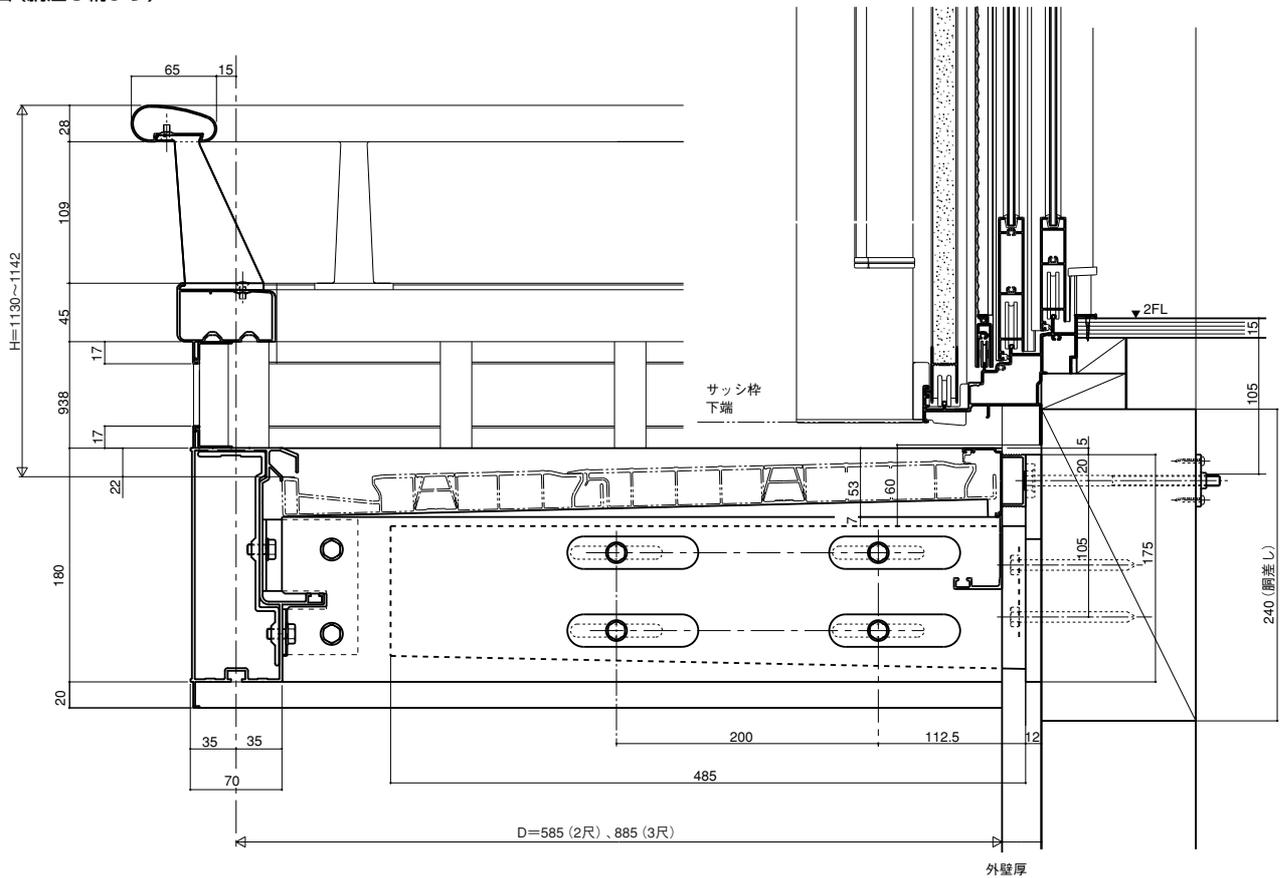


■納まり図

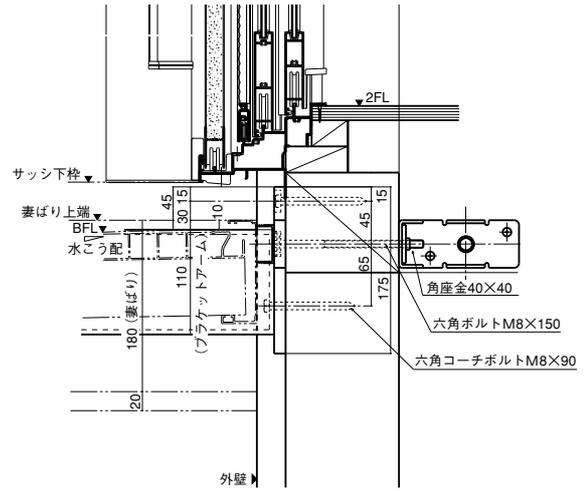
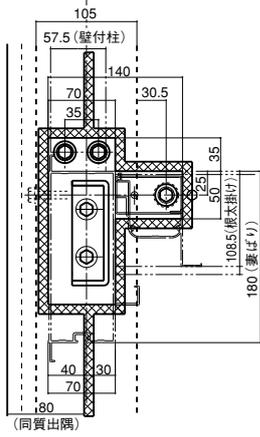
■縦断面図(柱芯納まり)



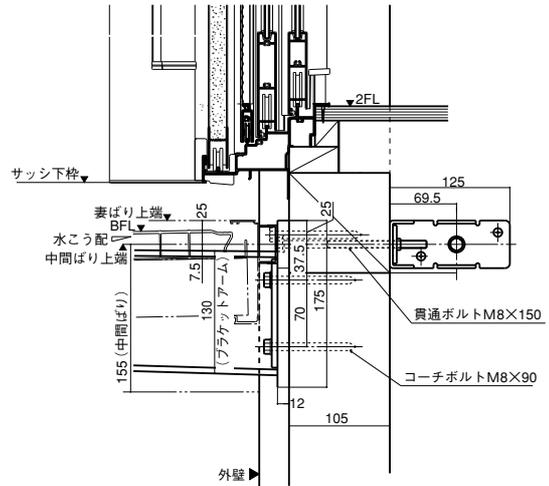
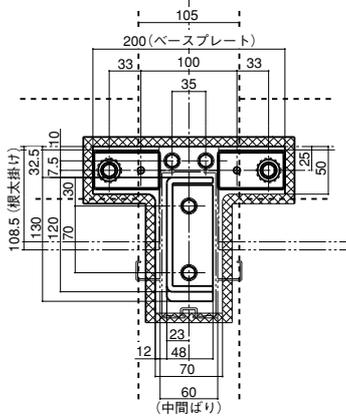
■縦断面図(胴差し納まり)



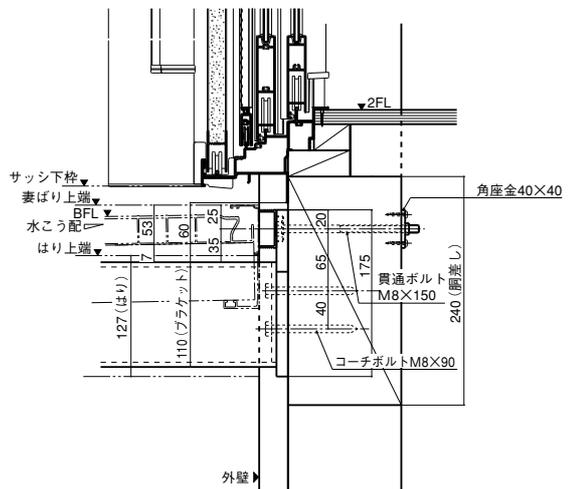
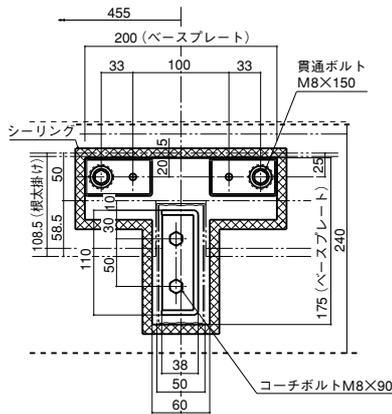
■先付けブラケット
(在来工法・柱芯納まり)



(在来工法・柱芯連結納まり)



(在来工法・胴差し納まり)



(2×4工法・胴差し納まり)

